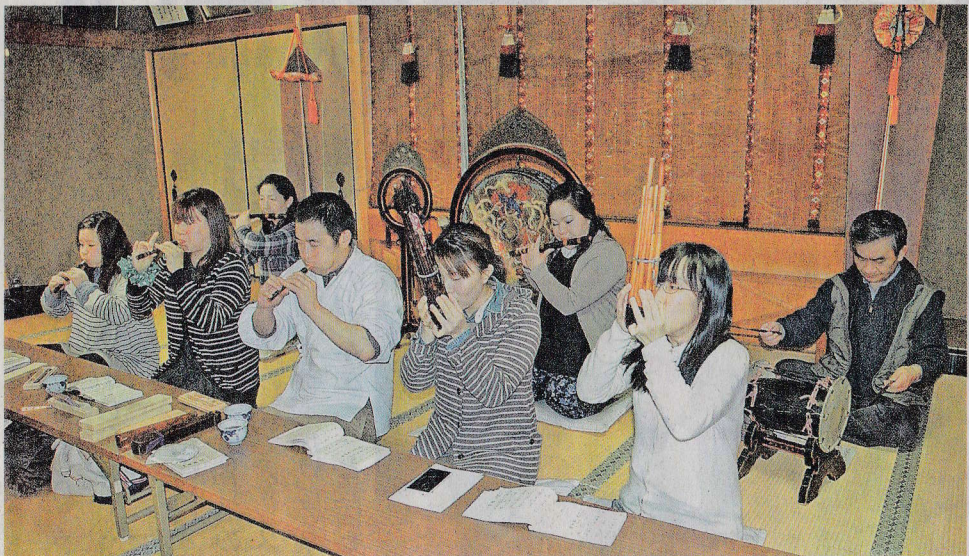


熱に稽古ら子氏 和神社・大津

雅楽継承若い力で

大津市木下町の和田神社で、地域で受け継がれてきた雅楽の伝統を守ろうと、宮司や氏子たちがグループを結成し、約6年前から雅楽の演奏を学んでいる。祭礼のほか、昨年から市内の小学校で演奏するなど活動の場を広げており、「日本古来の音を後世に伝えたい」と熱心に稽古に励んでいる。

7日初の演奏会出演



7世紀後半の創建と伝わる同神社では代々、氏子らによる雅楽会「雅尚会」があり、親から子へ楽器や技法が口伝で受け継がれてきた。しかし近年は、奏者が高齢化し、後継者不足が深刻になっていた。

2007年夏、「伝統を途絶えさせてはいけない」と、嶽山修平宮司(33)が、地域住民や雅楽に関心のある若い世代の人たちと呼び掛け、雅尚会の奏者に演奏を習い始めた。

雅楽の世界では「笙3年、龍笛5年、箏箏7年

練習に励む嶽山宮司(前列左から3人目)と奏楽会のメンバー(大津市木下町・和田神社)

まだ鳴らん」と言われ、習得が非常に難しいとされる。それでも、3年を過ぎたころから次第に形になり、昨年1月に「奏和会」として本格的に活動を開始した。

20〜30歳代の主婦や会社員ら16人で、毎週金曜夜に稽古を重ねている。氏子役員らの理解も得て、同神社の例祭など年間10回ほど演奏。昨年は、青山小など市内の2校で、音楽の授業の一環として演奏を披露した。

嶽山宮司は「お祭りでもCDを使う神社もあるが、生演奏の伝統を守りたい。人々の祈りに寄り添ってきた雅楽の魅力を知ってもらえれば」と語る。

7日午後1時半から、同市小関町の「ながらの座・座」で、初めての本格的な演奏会に出演。多くの神事で演奏される「越殿楽」や、現代のヒット曲を雅楽に編曲した作品などを披露する。入場料3千円。先着40人で事前申し込みが必要。

ながらの座・座電話兼ファクス077(5522)2926。

(森山敦子)